



米子市埋蔵文化財センターたより



第8号

2013年3月

越敷山古墳群・坂長越城ノ原遺跡の調査

厳冬期の12月から調査を開始した越敷山古墳群・坂長越城ノ原遺跡の発掘調査地点は標高100m近い丘陵部に位置していますが、今年は奇跡的に雪が少なく順調に調査が進行しております。現地は進入路が狭く、組み立て式のハウスも設置出来ない状況でしたので、運動会用のテントに横幕を廻らし、ベニヤ板で目張りをして寒さをしのぐ日々が続きましたが、最近ようやく春の兆しが見え始め、季節の移ろいが実感できるようになってきました。



発見した弥生時代後期の小形の竪穴住居跡

これまでの発掘調査では、坂長越城ノ原遺跡の斜面部で縄文時代の落とし穴1基、弥生時代後期の竪穴住居跡4棟と掘立柱建物跡2棟、時期不明の道路状遺構5条を確認しました。この中で特筆すべきは大型の竪穴住居跡で、検出した上面で直径10m近いものがあり、鳥取県西部でも最大級の竪穴建物跡と考えられます。現在、竪穴内に埋没した土砂を除去していますが、深さも1.2m以上あるため、遅々として作業が進まない状況です。

坂長越城ノ原遺跡に重複している越敷山古墳群は、鳥取県遺跡地図に記載のある越敷山107号墳から110号墳の合計4基の円墳を調査しています。どちらも調査前から直径数m程度のマウンドが確認できる状況でしたが、表土を除去してみると、過去の道路の造成や植林などで墳丘が削平されているものもあるようです。

また、古墳群の周辺には石棺が3基ほど露出しており、古墳の墳丘周辺部にもいくつかの埋葬主体が点在している状況が明らかになりました。

古墳の埋葬部の調査はまだ未着手ですが、一部墳丘が削平されている古墳では、墳丘の断面に二段墓壇状の落ち込みが確認出来るものがあることから、中心埋葬部には木棺が使用されている可能性が高いものと考えられます。この中から副葬品が見つかるかどうか、これからの調査に期待がかかります。また越敷山古墳群の調査は、平成25年度にも引き続き継続しますので、更なる発見を目指して調査を進める予定です。(佐伯)

発掘調査情報

境内海道西遺跡の調査 —現地発掘調査終了—

平成 24 年 4 月から始めました境内海道西遺跡の発掘調査は平成 25 年 1 月 31 日をもって無事終了いたしました。

調査の結果、縄文時代の落とし穴、弥生時代後期から古墳時代にかけての竪穴住居跡、古墳時代後期の円墳の他、奈良・平安時代の掘立柱建物跡や段状遺構などが見つかりました。調査区域では弥生時代後期に斜面を削平した細長い通路を作り集落が営まれます。古墳時代中期から後期になると集落は低地に移り、丘陵上には円墳 4 基が作られるようになります。円墳の周溝内からは供献土器が良好な状態で出土しました。

平成 21 年度から行われた南部バイパス関連の発掘調査は、今回の調査ですべて終了しました。今後、出土品整理や分析、研究などを行い、発掘調査報告書として刊行していく予定です。この成果が郷土の歴史を探る一助となれば幸いです。（濱野）



遺跡現地説明会



円墳の周溝内埋葬施設の供献土器

整理室たより

整理室では国道 180 号線南部バイパス関係の遺跡出土品の整理作業中です。

作業は洗浄、記名、接合、復元を行い報告に必要な資料を選別ピックアップして実測へ回します。

この作業段階で、さまざまな観点から観察を行いますが、例えば右の写真に掲げたように土器表面に粃の圧痕や植物の圧痕がついたもの、顔料が付着したものなど様々な情報が見つかります。

整理作業員の眼力で、歴史的な新発見がなされた例があり整理作業は重要な作業工程です。



福成大坪上遺跡出土土器の粃圧痕

遺跡シリーズ9 福市遺跡 (ふくいちいせき)

福市遺跡は米子市街地の南東4kmの福市の丘陵上に広がる弥生時代後期(3世紀)から古墳時代後期(6世紀)にかけての集落・墳墓の遺跡です。

山陰での古代集落跡の発見は福市遺跡に始まります。昭和31年(1961)当時、御所原遺跡と呼ばれていましたが、昭和42年(1967)福市の丘陵地に区画整理事業が計画されたのが発掘調査の契機となりました。無調査で壊される遺跡をみて考古学研究者や学生がブルトーザーに追われながら調査し、次第に重要な遺跡であることが解ると遺跡の保存運動が起こり、米子市は調査団を結成して大規模な発掘調査を実施しました。その結果、集落全体の様子が分る貴重な遺跡として全国的に注目されました。そのため米子市は重要な遺跡と判断し工事計画を一部変更し、日焼山・吉塚地区の39,414㎡を国の史跡に指定申請して保存することにしました。遺跡保護が市民の理解や行政の施策として定着していない時代にあつて、画期的なことでした。集落跡と墳墓群が一体となっているのが福市遺跡の特色であり、山陰の古代集落跡解明の先駆けとなりました。その陰には多くの市民・学生・研究者が流した汗があつたことを忘れてはならないでしょう。



昭和42年 研究者や学生たちの調査

コラムー弥生遺跡を掘る ⑦弥生時代中期 一角田遺跡ー

米子市淀江町稲吉地区の水田下に包蔵されている弥生時代中期の遺跡です。

1980年、圃場整備に伴う調査でヘラ描の絵画土器片が発見されました。

復元すると高さ約150cm、口径約50cmの大型の壺形土器で、頸部に同心円?舟をこぐ人物、建物、動物、木につりさげられた物など多種多様な絵が描かれていました。高い梯子の架かった掘立柱建物の



絵は、吉野ヶ里遺跡の楼観のモデルとなりました。これらの絵画は、湖沼が広がっていた弥生時代当時の淀江の情景を描いたものと推察されており、豊作への祈りや収穫への感謝などの「まつり」に関する物語を表したものと考えられています。(小原)

センター・資料館日誌

- 12月21日 県博「鳥取発掘クロニクル」へ福市遺跡、青木遺跡などの出土遺物など貸出。
- 12月25日 整理作業員の研修会を開催した。
- 12月28日 仕事納め。
- 1月4日 仕事始め。
- 1月17日 境内海道西遺跡で調査成果の記者発表を行った。
- 1月20日 境内海道西遺跡で調査現場説明会を実施した。
- 1月23日 諏訪西山ノ後遺跡の袍衣写真等を鳥取県埋文センターへ提供した。
- 2月1日 歴史館展示の陰田横穴墓出土の須恵器類が返却された。
- 2月9日 第12回山陰中世土器検討会が埋文センターで開催された。
- 2月17日 鳥取県博「鳥取の遺跡発掘クロニクル」展連続講座で「博労町遺跡」について、濱野調査員が講演した。
- 2月26日 上淀廃寺金堂復元検討模型が埋文センターへ搬入された。



- 3月9日 「弥生文化シンポジウム・とっとり倭人伝・東西日本からみた山陰の弥生社会」鳥取県教委主催に、整理作業員と参加聴講。
- 3月16日 木器研究会が埋文センター研修室で開催された。
- 3月27日 米子市歴史館運営委員会が開催(予定)



第12回山陰中世土器検討会風景

編集後記

福市遺跡公園の桜のつぼみもふくらみ始め、もうすぐ開花です。埋蔵文化財センターのまわりも、すっかり春めいてきました。

平成24年度の事業も終わりとなり、職員は次年度の事業準備と、昨年来からの整理報告の作業に休む暇もなくバタついていきます。



境内海道西遺跡土器洗浄作業

発行日 平成25年3月20日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 米子市教育文化事業団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp